

SSH 生徒研究発表会 わかりやすい発表に盛り上がる

2月10日(日)に嵐山町にある国立女性教育会館(NWEC)において平成30年度SSH生徒研究発表会を行いました。9:20から講堂で行われた口頭発表では、理数科2年生のSS科学探究Ⅱの研究から4本、SS数学探究Ⅱから1本の発表と、理数系部活動から各1本ずつ、合計



10本の発表がありました。11:50からは研修棟110室で、理数科1年生のSS科学探究Ⅰ、SS数学探究Ⅰや理数科2年生のすべてのチームのSS科学探究Ⅱや数学探究Ⅱのポスター発表がありました。パワーポイントを用いながらの口頭発表では、各チームとも原稿に頼らないわかりやすい発表を、ポスター発表でも実物を使った発表などもあり、大いに盛り上がった発表会となりました。なお3月20日(水)に本校体育館で、優秀だった2本の発表を全校生徒向けに披露します。



午後は、外部の先生方向けの本年度のSSH成果報告会を行い、さらにその後の運営指導委員会では、松高のSSHの評価等を受けました。

SS 数学講義「点字のふしぎ」がありました

1月22日(火)に1年生の理数科と特進クラスの生徒を対象にSS数学講義を実施しました。講師に東京電機大学理工学部教授 ^{はざま} 裕文夫先生をお招きして「点字のふしぎ」というタイトルでご講義いただきました。



裕先生は、エレベーターに乗った時に目にした点字をヒントに、点字の読み方の「仮説」を立て「論理的」に考え「分析」し「実証」することで、点字の読み方を解説していく過程を自らの経験を元にお話しく下さいました。これは理科や数学を学ぶ上で非常に重要なことで、ぜひ生徒たちにも身に着けてほしい考え方です。点字を数学的に分析することで、講義の最後に生徒たちはある程度の点字を読めるまでになりました。

SS 講義「世界のとびら」アルゼンチンの紹介



2月8日(金)に理数科2年生を対象に、高校教育指導課 国際交流員のスミヒロマリエンさんを講師にお招きして、マリエンさんの出身地であるアルゼンチンのお話をいただきました。



日本から距離もあり、なじみが薄いアルゼンチンですが、日本からの移民も大勢いて毎年夏に盆踊り大会が開催されている話など、アルゼンチンの文化や自然について数多くの美しい写真と共に紹介いただきました。

また、異文化理解の大切さについても触れられ、旅行や留学は成長のチャンスであるとまとめられました。

生徒からは、「異文化を理解し互いに認め合う必要があると思うので、旅行や留学、修学旅行などの機会を通して異文化を理解していきたいです。」という感想も寄せられました。